



支部だより

第 69 号

編集・発行

〒464-0039

名古屋市千種区日和町2-18

名古屋地方気象台内

日本気象学会中部支部

電話 052-751-5124

2009.11.19

目次

- ・ 2009 年度（平成 21 年度）中部支部総会の報告 1
- ・ 第 15 回公開気象講座の報告 2
- ・ 平成 21 年度気象学会中部支部研究会のお知らせとプログラム 2

◆ 2009 年度（平成 21 年度）中部支部総会の報告

2009 年度日本気象学会中部支部総会が 7 月 24 日（金）、16 時 00 分より名古屋地方気象台会議室において開催されました。開会の辞の後、牧原康隆支部長により、「昨年度の 8 月末豪雨や伊勢湾台風から 50 年ということで、気象への感心が高まっている。今年度も活発な支部活動を行っていきたい」という内容の挨拶がありました。その後、名古屋地方気象台の渡邊会員が議長として選出されました。

中部支部会員のうち、議決権を有する通常会員は 105 名となっています。総会成立のためには支部規約により、通常会員数の過半数の参加（委任状を含む）を必要とするために、53 名以上が必要となります。委任状（総会参加ハガキ）の総数が 49 通（ただし、総会参加者で委任状を提出した通常会員数を除く）である旨の報告がありました。委任状（49 通）と総会への通常会員の出席者（11 名）の総数（60 名）が、通常会員数（105 名）の過半数（53 名）を超えたことから、総会の成立が確認されました。

その後、支部だより第 68 号に掲載された議案(1)～(5)について審議されました。

(1) 2008 年度（平成 20 年度）事業報告

事務局より支部だより（第 66 号、67 号）の発行、第 18 期役員選挙の実施、第 14 回公開気象講座（「気象観測のブレークスルー：GPS 掩蔽法」というテーマで、2008 年 8 月 25 日に名古屋能楽堂にて開催され、50 名を越える参加があった）、中部支部 web サイトの運用開始、支部研究会の開催（2008 年 12 月 1～2 日の 2 日間にわたって金沢市の金沢駅西合同庁舎において開催され、22 件の発表があり、両日とも 50 名の参加があった）などについての報告があり、承認されました。

(2) 2008 年度（平成 20 年度）中部支部会計報告

事務局より 2008 年度の会計報告があり、承認されました。

(3) 2008 年度（平成 20 年度）中部支部会計監査報告

多々良会計監査より、2008 年度の支部会計が適正に処理されている旨の報告があり、承認されました。

(4) 2009 年度（平成 21 年度）中部支部事業計画案

事務局より今年度の事業計画案が下記のように提案され、承認されました。

- ・支部だよりの発行（第 68 号、第 69 号）。
- ・第 15 回公開気象講座を「台風研究の最前線」というテーマで 8 月 25 日に名古屋大学野依記念学術交流館において開催する。
- ・今年度の支部研究会を 12 月に三重県において開催する。

(5) 2009 年度（平成 21 年度）中部支部予算案

事務局から今年度の事業計画に基づいた予算案が提案され、承認されました。

◆ 第 15 回公開気象講座の報告

日本気象学会中部支部主催の公開気象講座は、気象学に関する専門的かつ最新の知識を一般の方々に分かりやすく解説することを目的に開催されるもので、今年で 15 回目を数えます。今年度は、「台風研究の最前線」というテーマで 8 月 25 日（火）に名古屋大学野依記念学術交流館において行われました。牧原康隆支部長の挨拶の後、海洋開発研究機構の山田広幸氏により「熱帯海洋上で発生する台風の観測研究」というタイトルで、船舶等を用いた観測による台風発生の最新結果と、それを元にした台風発生のシミュレーションの結果を紹介していただきました。次いで、名古屋大学地球水循環研究センターの篠田太郎氏(同研究センターの坪木和久氏の代講)により「コンピュータで台風の暴風雨はどこまで再現できるか」というタイトルで、台風を構成する積乱雲一つひとつを計算する雲解像モデルを用いた台風の詳細なシミュレーション結果と、地球温暖化に伴うスーパー台風の発生予測について紹介していただきました。最後に、気象庁の萬納寺信崇氏により「最新の台風予測技術」というタイトルで、気象庁の最新の台風予報技術と、予報精度向上のために行っている技術開発を詳しく紹介していただきました。会場には 60 名を超える参加者がありました。参加者のアンケートでは、最新の台風研究がわかり、大変有意義であったとの意見が多く見られました。

◆ 平成 21 年度気象学会中部支部研究会のお知らせとプログラム

今年度の中部支部研究会は 12 月 8 日（火）および 9 日（水）の 2 日間にわたって、三重県津市の三重大学内において開催する予定です。既に講演の申し込みは締め切られていますが、講演の申し込み件数は 27 件に及び、気候システム、エアロゾル、地球温暖化や大気海洋相互作用に関する研究など、いろいろな分野における講演が予定されています。研究会のプログラムを以下に添付いたしますので、ご興味のある方は是非とも会場までお越しください。

◇ 平成 21 年度支部研究会概要

日時： 2009 年 12 月 8 日（火曜日）12:30 ～ 18:00（終了後、別会場で懇親会）

12 月 9 日（水曜日）09:00 ～ 14:20

場所：三重大学総合研究棟 II 1 階メディアホール（三重県津市栗真町屋町 1577）

交通案内(周辺地図は支部だよりの最後にあります)：

会場となる三重大学総合研究等 II へは、近鉄江戸橋駅（三重大学前）から徒歩で約 15 分です。近鉄江戸橋駅へは、近鉄名古屋駅より近鉄電車急行で約 60 分です。

◇ 講演プログラム

12月8日(火)

12:30 ~ 12:40 開会の辞 牧原康隆(中部支部長/名古屋地方気象台)

12:40 ~ 13:00 榊原朱里*・葛葉泰久(三重大学生物資源学部)

「地球の気候変動に与えるいろいろな地球惑星的要素の研究」[P]

13:00 ~ 13:20 五味千絵子*・葛葉泰久(三重大学大学院生物資源学研究科)

「降水量変化に伴う気温・風速変化に関する研究」[P]

13:20 ~ 13:40 葛葉泰久*(三重大学大学院生物資源学研究科)

「マルチフラクタルを用いた降水量のモデル化」[P]

13:40 ~ 14:00 草刈智一*・寒川典昭・山崎基弘(信州大学工学部)

「降水パターングラフを用いた一雨降水の経年変化分析」[P]

14:00 ~ 14:20 北田圭吾*・福山 薫(三重大学生物資源学部)

「Lacunarity 指標を用いた画像解析と気象への応用」[P]

14:20 ~ 14:30 休憩

14:30 ~ 14:50 永田絵美*(名古屋大学大学院環境学研究科)・中村健治・古澤
(秋元)文江・森 弥佐(名古屋大学地球水循環研究センター)

「アマゾン産業研究所の地上観測データからみるアマゾンの過去気候」[P]

14:50 ~ 15:10 サンガ ンゴイ カザディ(立命館アジア太平洋大学)・吉川沙耶花
*(三重大学大学院生物資源学研究科)

「熱帯地域における森林破壊とサバンナ化 — アマゾン南部を例にして —」[P]

15:10 ~ 15:30 緒方香都*・立花義裕(三重大学生物資源学部)・宇田川佑介
(北海道大学大学院環境科学院)

「海氷が南極周辺の大気循環に与える影響」[P]

15:30 ~ 15:50 立花義裕*(三重大学生物資源学部)・中村 哲(国立環境研究所)・
小宮豪巳・高橋政憲(東海大学)

「夏の NAM の発達とブロッキング高気圧との関連」[P]

15:50 ~ 16:10 伊藤匡史*・立花義裕(三重大学生物資源学部), 猪上 淳, 堀 E.
正岳, 菊地 隆, 本田明治(海洋研究開発機構地球環境変動領域)

「2009 年秋の北極海ラジオゾンデ観測速報」[P]

16:10 ~ 16:20 休憩

16:20 ~ 16:40 西川はつみ*・立花義裕(三重大学生物資源学部)・宇田川佑介
(北海道大学大学院環境科学院)

「大気境界層の鉛直構造を決定付ける大気海洋相互作用～ラジオゾンデ観測より～」

[P]

16:40 ~ 17:00 近藤淳也*・轡田邦夫(東海大学海洋学部)・永延幹男(水産総合研
究センター)

「Drake Passage Oscillation Index (DPOI) の長期解析と南大洋上における海上気
象変動との関係」[P]

17:00 ~ 17:20 亀田 傑*・轡田邦夫(東海大学海洋学部)・小山 真(NEC 航空宇
宙システム)

「人工衛星高解像度データセットを用いた黒潮続流域における大気海洋相互作用の
解析」[P]

17:20 ～ 17:40 伊藤寛悟(国土緑化(株))・依田和子*・轡田邦夫(東海大学海洋学部)

「駿河湾付近に発生する収束線発生時の気象条件に注目した事例解析」[P]

17:40 ～ 18:00 轡田邦夫*・守屋 洋・鶴川 賢(東海大学海洋学部)

「2009 年 7 月 22 日皆既日食前後の海上気象変動」[P]

18:15 ～ 懇親会

12 月 9 日(水)

09:00 ～ 09:20 佐々木孝将*・久保田雅久(東海大学海洋学部)

「海洋による南北熱輸送量の推定(その2)」[P]

09:20 ～ 09:40 佐藤大志*・久保田雅久(東海大学海洋学部)

「降水時における衛星潜熱フラックスの推定」[P]

09:40 ～ 10:00 洪天祥*・岩坂泰信・李東仁(金沢大学フロンティアサイエンス機構)

「2009 年鬱陵島で観測した大気中のエアロゾルの変動」[P]

10:00 ～ 10:20 村瀬慎太郎*・皆已幸也(石川県立大学生物資源環境学部)

「イロハカエデの紅葉日を決定する気象要素に関する考察」[P]

10:20 ～ 10:30 休憩

10:30 ～ 10:50 平松章男*(北陸先端科学技術大学院大学/日本気象予報士会)・
Huynh Van Nam・中森義輝(北陸先端科学技術大学院大学)

「確率予報の効果的な利用について」[P]

10:50 ～ 11:10 水越允治*(三重大学)

「古記録で読む歴史時代の天候・気候 -日本の中世を主として-」[OHP]

11:10 ～ 11:30 柴田有紀子*(富山大学大学院理工学教育部)・川村隆一(富山大学
大学院理工学研究部)・初鹿宏壮(富山県環境科学センター)

「北陸地方のフェーン発生の要因となる夏季の大規模循環の役割について」[P]

11:30 ～ 11:50 糟谷 司*(富山大学大学院理工学教育部)・川村隆一(富山大学大学
院理工学研究部)

「中国・四国地方の夏季静穏日における GPS 可降水量の日変化特性」[P]

11:50 ～ 12:10 林 弘文*

「地球温暖化とメタン分子振動」[OHP]

12:10 ～ 13:10 昼休み

13:10 ～ 13:30 吉野 純*(岐阜大学大学院工学研究科)・飯田潤士(大日コンサル
タント株式会社)・安田孝志(岐阜大学大学院工学研究科)

「地球温暖化を考慮した可能最大級台風の災害ポテンシャルの評価」[P]

13:30 ～ 13:50 吉村 香・松本 守・喜内 恒*・林 真由(名古屋地方気象台)

「愛知県周辺の高温について」[P]

13:50 ～ 14:10 萩原滋彦*(名古屋地方気象台)

「平成 21 年台風第 18 号による三河湾における高潮」[P]

14:10 ～ 14:20 講評 中村健治(気象学会理事/名古屋大学)
閉会の辞

